

学校だより6月号



さかもと

平成27年6月5日  
横浜市立坂本小学校

さわやかに かがやいて もくひょうもって ともにあゆもう

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sakamoto/>

## ひとつになれる歌

校長 神倉 美智子

5月末の連日暑い日の中、子どもたちも教師も、「元気！本気！ちいき！ひとつになれる運動会！！」のスローガン実現に向けて、一生懸命運動会の練習に取り組みました。練習期間は短かったですが、日を重ねる毎に、子どもたちの演技やかかけ声が揃って、力強くなり、動きがよくなっていくのが、校長室に窓から見ていてもよくわかりました。休み時間に練習しているリレーの選手や、応援団の子どもたちも本当によく頑張り、晴天に恵まれた5月30日当日には、見事にその成果を発揮してくれました。

さて、その前日の5月29日には、体育館において開港記念集会を行いました。

今から156年前の1859(安政6)年6月2日、横浜は、幕府が前年アメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと結んだ修好通商条約に基づいて、国際貿易港として開港されました。しかし、当日なんらかの祝賀行事が行われた形跡はないそうです。

しかし、翌1860(万延元)年6月1日から2日にかけて、市街の入口に位置する洲干弁財天の神社（現在の弁天橋周辺）で開港一周年を記念する祭礼が行われ、外国人の見守るなか着飾った男女が山車・手踊りで練り歩き、それまで8月15日だった洲干弁財天の例祭は、以後この日に換えられました。これが開港記念日の始まりだそうです。

横浜港の誕生日の6月2日は、横浜市立の学校は全部休校になりますので、本校では、運動会の関係で少し早い記念集会となりました。

この集会は、横浜のことを勉強する4年生が中心になって毎年計画し、全校児童に昔の写真を見せて開港の話をしたり、クイズを出したりしています。また、市立の学校では行事の度に横浜市歌を歌います。私も横浜の小学校出身ですので子どもの頃に覚えました。こういうことを通して、子どもたちは横浜に誇りと愛着を持つようになっていくのだと思います。

昨年見た「けんみんショー」というテレビ番組では、「横浜市民はみんな横浜市歌が歌える」ということに、他県の出身者はとても驚いていました。先日の運動会でも歌いましたが保護者の皆さんも、地域の方々も、「ひとつになれる」歌ですね。これは明治42年に開港50周年を記念して、森林太郎（森鷗外）作詞、南能衛作曲でつくられたものです。子どもたちにとってはかなり難しい歌詞ですが、1年生ももうしっかり覚えて元気に歌っています。

横浜では成人式の式典や、大型客船が入港した時など、様々のところで使われています。坂本小でも、入学式、卒業式など大きな行事の時には必ず歌いますので、

保護者の皆様も、是非一緒にご唱和ください。（ちなみに、神奈川県には

「光あらたに」という、とても素敵な県歌がありますがご存知ですか？

私はこちら大好きです。）

